

# 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場するクルミの実の化石(後編)

石井竹夫

帝京平成大学薬学部  
e-mail : tishii@thu.ac.jp

## Fossil of Walnuts Appeared in “Night on the Milky Way Train” Written by Kenji Miyazawa (The Latter Part)

Takeo ISHII

*Faculty of Pharmaceutical Sciences, Teikyo Heisei University*

**Keywords :** 文学と植物のかかわり, ほんとうのこと, かはらははこぐさ, 押し葉, プレシオスの鎖, 曼荼羅

前報で『銀河鉄道の夜』の第三次稿と第四次稿の七章「北十字とプリオシン海岸」の化石発掘現場でジョバンニたちが拾った「クルミ」の実の植物化石が「第四紀更新世」の「オオバタグルミ」である可能性について説明した。本稿では、なぜ化石の発掘現場をジョバンニの夢の中（あるいは「死後の世界」）に登場させてきたのか、またなぜジョバンニたちが、「標本にするんですか」というごくありふれた質問をしたのに対して、学者らしい人が「証明するに要るんだ」という謎めいた答え方をしたのかを考察してみる。後者はこの物語の中では最も難解なところの一つであり、第三次稿の最後に登場するブルカニロ博士の言葉を借りれば「プレシオスの鎖」（解き難い謎の意味）である。

### 1. なぜ物語に「クルミ」の実の化石発掘の話を入れたか

一つは、当時、花巻の北上川流域の「第三紀鮮新世」の泥岩層から採取されたと考えられたクルミの実の化石とほぼ同じものがヨーロッパの特にイタリア（『銀河鉄道の夜』の物語の出発点）でも採取出来るということをもとに早坂から教えてもらったことによる。賢治は「第三紀 (Tertiary)」という言葉が好きで作品に多用する。「第三紀鮮新世」は、草本植物のうち特にイネ科の植物が拡大し、それを餌としたウシなどの偶蹄類が発展進化した時期である。現代の動物相に繋がるものがほぼ出現した時期でもあり、また生存競争が激しかった時期でもあることも推測される。例えば、この生存競争の厳しさを表現したものとして歌曲「イギリス海岸の歌」がある。この歌の詩には、「Tertiary the younger Tertiary the younger / Tertiary the younger Mud-stone / なみはあをざめ 支流はそそぎ

／たしかにここは 修羅のなぎさ」とある。「Tertiary the younger Mud-stone」は「第三紀上部層の泥岩」のことと思われる。北上川流域の「第三紀鮮新世」の泥岩層からは、植物化石と同時にたくさんの動物化石あるいは足跡化石（偶蹄類の足跡標本）が見つかる。また、「第三紀」という名称は18世紀中頃にイタリアの地質学者ジョヴァンニ・アルドウィン (Giovanni Arduino) が北イタリアの地層を、古い方から初源層、第二層、第三層と区分したもののなごりである（イタリアでは地質学の父と呼ばれている）。早坂 (1926) の論文ではイタリアの「第三紀」の「クルミ」は北部のロンバルディア州から採取されるとある。

童話『イギリス海岸』（宮沢、1986）では、西暦79年のイタリアのヴェスヴィオ火山の火砕流で地中に埋まった南部の古代都市ポンペイが出てくる。ポンペイはティレニア海沿岸のカンパニア州 (Campania) にある。賢治が異常感覚の持ち主であることは前報でも論議した (石井, 2013a)。この童話には、日に照らされて眼が眩んだのか、「イギリス海岸のまん中で、みんなの一生けん命掘り取ってゐるのをみますと、こんどは英国でなく、イタリアのポンペイの火山灰の中のやうに思はれるのでした。殊に四五人の女たちが、けばけばしい色の着物を着て、向ふを歩いてゐました」と幻覚（幻視）を体験したかのような表現もある。賢治は、粘土と火山灰から出来た泥岩層に埋まっている化石を見ているだけで、火山灰で埋もれた古代都市ポンペイが現れその幻夢の中にさ迷いこんでしまう。

古代都市ポンペイが発掘されたとき、壁画や美術品がほとんど当時の色彩を失っていなかったことに人々は驚嘆した。その美しさの秘密はわずか1日余りで埋め尽くした火砕流堆積物にあったとされる (エティエンス, 1991; 浅香, 2009)。火山灰を主体とする火砕流堆積物には多孔質の乾燥材の役割を果たす成分が含ま

2013年9月28日受付。

人植関係学誌 . 15(1):35-38, 2015. 資料・報告.

れていて湿気を吸収したようだ。火山灰が町全体を埋め尽くしたことが壁画や美術品の劣化を防いだ。これは、花巻のイギリス海岸やイタリアのロンバルディア州の「第三紀鮮新世」の地層に埋もれた「クルミ」の実にも言えると思われる。イギリス海岸の「クルミ」も火山灰や火砕流で埋まったからこそ120万年の時を越えて賢治に拾われることになった。

北緯45度に位置するクルミ化石発掘現場のロンバルディア州（主要都市ミラノの緯度は45度27分）は、イギリス海岸のある花巻の緯度（北緯39度23分）に近接していて、6月24日のイタリアの聖ヨハネの日（聖ジョバンニ祭）の夜には天頂近くに白鳥座（北十字）を見ることが出来る。賢治が考える天上は、童話『おきなぐさ』にあるように地上から見て真上である。また、『銀河鉄道の夜』に登場する「くるみの実」の発掘現場は白鳥の駐車場の近くである。すなわち、賢治は花巻産の「クルミ」の化石と早坂から教えてもらったイタリア産の「クルミ」の化石の発掘現場が地球上の位置（緯度）関係と年代でほぼ重ねることが出来るということで、南欧のイタリアを舞台とした物語の天上にも白鳥座の近くで「くるみの実」の化石が発掘できるという設定にしたと思われる。

二つ目の理由としては、「クルミ」の実の成り方によると思われる。白鳥の駐車場近くには景観植物として「イチヨウ」の木があった。「イチヨウ」は雌雄異株で雌株の木の短枝の先に出る長い花柄に普通2個の実をつける。この2個の実がジョバンニとカムパネルラの「双子性（あるいは兄弟）」を暗示させることを前報で報告した（石井, 2013b）。化石発掘現場が出てくる第七章は「二」あるいは「二人」という文字が繰り返し出て来て、読者にジョバンニとカムパネルラの関係の秘密を解き明かさせようとしている。そしてそれが第七章のテーマの一つになっている。「イチヨウ」と同じように「クルミ」の実およびその成り方もその秘密を解き明かすカギの一つとも思われる。「クルミ」の実は「オニグルミ」のような小粒のものはブドウのように房状の実をつけるが、「オニグルミ」よりも大粒の実が成る「テウチグルミ」（西域から伝来された）は1～5個の少数の実をつける。小平市の東京都薬用植物園の「テウチグルミ」は「イチヨウ」と同じように花柄の先端に2個の実（乳房のよう）をつけることが多い（石井, 2014）。多分、幻夢の中に入り込みやすい性格をもつ賢治は、イギリス海岸で120万年前に自生していた大型の実をつける「オオバタグルミ」が、「イチヨウ」の実と同じように2個寄り添って実をつけているのをイメージしていたのかもしれない（現存する「バタグルミ」は普通2～3個）。

賢治がクルミを法華經の比喩として使っていることは前報で述べた（石井, 2014）。法華經の中の登場人

物を借りて説明すればこうなる。ジョバンニとカムパネルラは『法華經』の第二十七章「妙莊嚴王本事品」に出てくる二人の王子・淨蔵（兄）と淨眼（弟）に対応する（吉本, 2012；石井, 2013b）。淨蔵、淨眼の二人は後の薬王菩薩と薬上菩薩である。『法華經』の第二十三章「薬王菩薩本事品」には、薬王菩薩が前世において、みずから妙香を服し香油を身に塗って、その身を燃やし仏を供養した一切衆生意見菩薩であったとも説かれている（坂本・岩本 1976）。すなわち、ジョバンニとカムパネルラは、それぞれ薬王菩薩と薬上菩薩の化身と思われるが、人類が誕生していない120万年前の前世では火山灰や火砕流で焼けてしまった「オオバタグルミ」であったのかもしれない。

三つ目の理由としては、「バタグルミ」の食用部（種子）がバター（Buttery flavor）がすることによる。『銀河鉄道の夜』は、母親に届いていない牛乳を牧場の牛乳屋へ取りに行く途中で夢の中（死後の世界）で銀河（Milky way；乳の道）を旅する物語である。物語自体が乳（Milk）臭いので、バター味のする「バタグルミ」の実が銀河の地層に埋まってもおかしくない。なぜ、乳臭いかというこの物語が曼荼羅（Manndala）そのものであるからである。「manda」は、牛乳から作られる最高の飲み物である「醍醐（だいご）」（現在では醍醐味という）のことで、「本質（ほんとうのこと）」という意味を持っている。仏教では、乳を精製する過程の五段階を「五味」と言い、「乳（にゅう）」「酪（らく）」「生酥（しょうそ）」「熟酥（じゅくそ）」の順に上質な美味なものとなり、最後の最も精製された「醍醐」で最上の味を持つ乳製品が得られるとされる。「la」は「有る・得る」という所有を意味する接頭語である。「Manndala」を直訳すれば、乳から得られる「ほんとうのことを得る」である。根源的なことを言えば、「母」という漢字は、「女」に点二つをうったもので、この点二つはまさしく乳房の象徴である。「Mama（ママ）」は直接「Mamma（乳房）」の発音に由来したもので、このma音が唇による哺乳の象徴音であり、第三紀に栄えた偶蹄類の特徴をなすものでもある。また、Mater（母）がMere（海：ともにラテン名）に通じていることも見逃してはならない（三木, 1992）。ただし、絶滅してしまった「オオバタグルミ」の種子の部分がどのような味がするかは誰も経験していない。

## 2. プレシオスの鎖

物語で「学者らしい人」は「クルミ」や偶蹄類の化石発掘から何を証明しようとしたのか。この問題に答えることは、なぜ物語に「クルミ」の化石発掘の話を入れたかの最も重要な答えの一つにもつながる。多分、この証明は物語の最終章のジョバンニ（法華經の中の薬王菩薩の化身）とキリスト教徒らしき青年や女の子

の間で行われたどれが「ほんとうの神さま」かどうかを問うた未決着の宗教論争に何らかの決着を与えるために必要であったと思われる。

天上で法華経思想を比喻している「クルミ」の林は、キリスト教を比喻していると思われる「苹果」や「十字架」の後に、黄金の円光を放つ「電気栗鼠」と一緒に登場してくる。賢治からすれば、物語の最終章の最後に「クルミ」の林を登場させることで「ほんとうのこと」を言っているのは法華経（だけ）だと言いたいのかもしれない。同様のことは七章の「クルミ」の化石の話でも言える。この「オオバタグルミ」の化石は、120万年経った今日でも当時の面影を残している。賢治はこの永遠に存在し続ける「クルミ」の化石で象徴される「法華経」が「ほんとうのこと」を言っている、あるいは「醍醐味」が得られる唯一の経典であると言いたいのかもしれない。これは如来の寿命の長さが永遠であることと、如来の言葉が「ほんとうのこと」であるということが主張されている『法華経』十六章の「如来寿量品」に対応する（坂本・岩本, 1976）。賢治は「如来寿量品」を最初に読んで身体の震えが止まらなかったという。しかし、科学者でもある賢治は自分が帰依した法華経が「ほんとう」の経典であるという絶対的確信まで到達することはできないでいる。キリスト教徒たちと「ほんとうの神さま」について論争をしたとき、ジョバンニは、世界中にたくさんの神と言われているものがある中で「ほんとう」の神はたった一人だと繰り返しキリスト教徒に言うが、自らの神が「ほんとうの神」と信じているキリスト教徒たちには理解されない。あるいは説得できない。すなわち、「ジョバンニ＝賢治」が絶対として信じていたものが相対性の中にさらされてしまう。賢治の心は宗教者と科学者の間で揺れ動いている。そこで、賢治は「ほんとうのこと」を言っていると思われる「科学」も、「宗教」と同じように相対的なものであるということ『銀河鉄道の夜』の登場人物（セロのような声の人物）を介して言おうとした。

おまへは化学をならったらう。水は酸素と水素からできてゐるといふことを知ってゐる。いまはだれだってそれを疑やしない。実験して見るとほんたうにさうなだから。けれども昔はそれを水銀と塩でできてゐると云ったり、水銀と硫黄でできてゐると云ったりいろいろ議論したのだ。みんながめいめいじぶんの神さまがほんたうの神さまだといふだらう。けれどもお互ほかの神さまを信ずる人たちのしたことでも涙がこぼれるだらう。それからぼくたちの心がいゝとかわるいとか議論するだらう。そして勝負がつかないだらう。けれどももしおまへがほんたうに勉強して実験でちゃんとほんたうの考とうその考とを分けてしま

へばその実験の方法さへきまればもう信仰も化学とおなじやうになる。けれども、ね、ちょっとこの本をごらん、いゝかい、これは地理と歴史の辞典だよ。この本のこの頁はね、紀元前二千二百年の地理と歴史が書いてある。よくごらん紀元前二千二百年のことでないよ、紀元前二千二百年のところにみんなが考へてゐた地理や歴史といふものが書いてある。だからこの頁一つが一冊の歴史の本にあたるんだ。いゝかい、そしてこの中に書いてあることは紀元前二千二百年ころにはたいてい本当だ。さがすと証拠もぞくぞく出てゐる。けれどもそれが少しどうかたと斯う考へだしてごらん。そら、それは次の頁だよ。紀元前一千年、だいぶ、地理も歴史も変つてゐるだらう。このときには斯うなんだ。変な顔をしてはいけぬ。ぼくたちはぼくたちのからだだだって考だつて天の川だつて汽車だつて歴史だつてたゞさう感じてゐるのだから、そらごらん、ぼくといっしょにすこしこゝろもちをしづかにしてごらん。いゝか。」

（中略）

「さあいゝか。だからおまへの実験はこのきれぎれの考のはじめから終りすべてにわたるやうでなければいけぬ。それがむつかしいことなのだ。けれどももちろんそのときだけでもいゝのだ。あつごらん、あすこにプレシオスが見える。おまへはあのプレシオスの鎖を解かなければならぬ。」

（『銀河鉄道の夜』第三次稿：宮沢賢治）  
第四次稿ではこの文章は削除される

引用文の下線を引いた部分を「クルミ」の化石で言い換えればこうなる。この早坂（1926）の論文には西暦1926年の花巻の「クルミ」の化石についての地理と歴史が書いてある。よくごらん西暦1926年のことではないよ。西暦1926年の頃に地質学会やみんなが考えていた花巻の「クルミ」の化石についての地理と歴史というものが書いてある。花巻の「クルミ」の化石は「第三紀鮮新世」の地層で見つかることとある。そしてこの中に書いてあることは1926年の頃はたいていが本当だ。しかし、1995年のこの大石・吉田（1995）の論文をみてごらん。だいぶ花巻の地理と歴史も変つてゐるだらう。花巻の「クルミ」の化石が見つかった地層は「第四紀更新世」のものかもしれないとある。さらに何百年もしたら、もうすっかり変わつてしまい、花巻の地層は「風か水やがらんとした空か見えやしないか」ということなんだ。変な顔をしてはいけぬ。僕たちは、天の川だつて汽車だつて歴史だつてその時代でたださう感じてゐるだけなのだから。

繰り返すが、賢治は科学も宗教も相対的なものであ

るということで科学と宗教を同一視しようとした。あるいは科学も宗教も止揚しようとした。自然科学は、生物学（広義には農学も含む）、化学、地学そして物理学のように自然に属するもろもろの対象を取り扱い、その法則性を明らかにする「絶対的真理」を追究する学問である。一方、宗教は、宗教学者の中沢新一によれば、「人間の内部にあり、思考能力を超えたものを見て、理解して、自分の生活と人生の中に組み込んでいく思想」（2005.10.24；東京国際フォーラムでのイベント「アースダイバーから芸術人類学へ」）であるとした。そこで、本来は誰が追試しても同じ結果（すなわち「ほんとう」の結果）が出るだろうと考える科学と、人間が主観でこれが「ほんとう」と考える宗教を一致させることは出来ない。そこで、賢治は、法華経が「ほんとう」の経典であることを示すために、「ほんとう」と「うそ」を見分ける新しい実験方法を創出しようとした。

『銀河鉄道の夜』第三次稿では、セロのような声をしたブルカニロ博士がこの実験をしたということになっている。新しい実験方法を創出しようとした試みの一つは、第三次稿と第四次稿の「鳥を捕る人」の章に出てくる。「鳥捕り」は、天の川で鳥を捕まえて売る商売をしていて、いつも白い巾で包んだ荷物を二つに分けて持っている。二つに分けた荷物には「鶴（true = ほんとう）」や「鷺（さぎ = うそ）」などが入っている。「鳥捕り」はジョバンニたちに「鳥の押し葉」にするというて捕まえた「鷺」を白い布から取り出す。すると、ジョバンニたちが、化石発掘現場と同じように、「鷺を押し葉にするんですか。標本ですか。」と「鳥捕り」に質問する。「鳥捕り」は、それに対して「標本じゃありません。みんなたべるじゃありませんか。」と不可思議な答え方をする。ジョバンニたちは、「鳥捕り」が出した「鷺」の「押し葉」は実は「お菓子」ではないかと疑う。この場面では、植物として「押し葉」の材料として使われる「かはらははこぐさ」が登場するが、カワラハハコ（キク科；*Anaphalis margaritacea* (L.) Benth. et Hook. f. subsp. *yedoensis* (Franch. et Sav.) Kitam.) は英名で“Japanese pearly everlasting”という。“everlasting”は「永遠の」あるいは「永久に続く」の意味である。「鳥捕り」は「鳥の押し葉」の作り方として、「十日もつるして置く」か「砂に三四日うずめておく」と言っている。前者は明らかにドライフラワーの作り方である。「鳥を捕る人」の章に出てくる「鷺」の「押し葉」は、「永遠の」真実に見せかけた「にせもの = うそ」である。ジョバンニたちはそれを見抜いているようにも思える。これと対になっているのが先にも記した七章に出てくる「クルミ」の化石である。この化石は「鳥の押し葉」に対して縞状の地層という新聞紙で作った「クルミの押し葉」である。賢治はこの「クルミの押し葉」=「法華経」が「永遠の」真実である「ほんもの」と言いたい。

賢治は、ブルカニロ博士を通して、物語で「ほんとう」と「うそ」を区別する実験を試みようとした。科学の方法論も超える新たな実験方法を創出するためには誰も解いたことのない「プレシオスの鎖」を解かなければならない。「プレシオスの鎖」は、旧約聖書のヨブ記の「汝ブレアデス（昴宿）の鎖索を結び得るや」に由来するもので「解き難い謎」を意味しているという（原, 1999）。もしも、この解き難い「プレシオスの鎖」（「ほんとう」と「うそ」が鎖のように絡まっていること）を解く方法を、何かを加えたらさっと分別してしまう「銀樹」の化学実験（石井, 2014）のように考えつくことができれば、宗教も科学も同じになり絶対的な真実（賢治の言う「ほんたうのほんたう」）が得られるのではないだろうか。

## 引用文献

- 浅香 正. 2009. 古代イタリア都市ポンペイの発掘・学術調査 15 年 - 考古学的資料からみた産業と交易：海のシルクロード - . 史学 77(4):359-439.
- エティエンス・R / 弓削 達（監） / 坂田由美子・片岡純子（訳）. 1991. ポンペイ・奇跡の町 - 蘇る古代ローマ文明 - . 創元社. 大阪.
- 原 子朗. 1999. 新宮沢賢治語彙辞典. 東京書籍. 東京.
- 早坂一郎. 1926. 岩手県花巻町産化石胡桃に就いて. 地学雑誌 38(2):55-65.
- 石井竹夫. 2013a. 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する幻の匂い（後篇）. 人植関係学誌. 12(2):25-28.
- 石井竹夫. 2013b. 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場するイチョウと二人の男の子. 人植関係学誌. 12(2):29-32.
- 石井竹夫. 2014. 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』に登場する聖なる植物（後篇）. 人植関係学誌. 13(2):35-38.
- 三木成夫. 1991. 海・呼吸・古代形象. うぶすな書院. 東京.
- 宮沢賢治. 1986. 文庫版宮沢賢治全集 10 巻. 筑摩書房. 東京.
- 野口圭也. 2013.9.14. (調べた日付). インド密教とマンドラ. <http://www.kongohin.or.jp/mandara.html#a>.
- 大石雅之・吉田裕生. 1995. 北上低地帯、胆沢扇状地付近に分布する中・下部更新統百岡層（新称）のフィッシュン・トラック年代. 地質学雑誌 101(10):825-828.
- 坂本幸男・岩本 裕（翻訳）. 1976. 文庫版法華経（全 3 冊）. 岩波書店. 東京.